

第4回新潟市花育推進委員会 会議速報

平成22年10月29日ホームページ掲載

日時	平成22年10月26日(火)午後2時～午後4時30分
会場	新潟市園芸センター研修室
出席委員	伊藤委員、今西委員、加藤委員、楠田委員、杉山委員、関委員、真木委員 丸山委員、森田委員、四柳委員
傍聴者	1名
事務局	園芸センター(永田所長、戸田副主査、木村技師) 関係課 農村・都市交流施設整備課(秋山課長、瀧澤係長、本間主査) 食と花の推進課(佐久間主査) 食育健康づくり推進課(黒崎係長) 公園水辺課(高橋副主査) 環境対策課(小林副主査) 学校支援課(永井副参事) 保育課(風間指導保育士)

概要

1 平成22年度花育推進事業の実施状況について

【資料1】

(事務局説明)

- 資料を基に、平成22年度の事業実施状況について説明。

2 (仮称)食育・花育センターの運営について

【資料2～4】

(農村・都市交流施設整備課説明、事務局補足説明)

- 資料を基に、(仮称)食育・花育センターの運営・管理と、事業実施(案)について説明

(主なご意見等)

<管理・運営について>

- イベントの実施には、民間の協力が必要で民間の情報を提供するなど、民と官の相互的な協力が無いとボリュームが出ないのでは。
- 夜間の講習・研修会の実施を。どの時間帯が来園者にも、植物にとっても良い状態で運営できるかを柔軟に考えるべきでは。
- 仮整備の体験圃場の学校利用については、移動手段が確保できれば可能。
- 花畑は、維持管理と環境や景観に考慮し、食とつながる企画が出来ると学習としてよ

いのでは。

- ・ ただきれいというところから一步踏み込んだ「なぜ（食育につながる）」を考えられるような花畑にすべき。
- ・ 花畑から蜜をとり、それを仲立ちとして海外と交流するなど夢を追える施設作りが必要。
- ・ 菜の花プロジェクトなどの活動を(仮称)食育・花育センターで広げられるよう、各部署との連携を視野に入れるべき。

<実施事業(案)について>

- ・ 人材育成が重要。ボランティアの勉強する機会を年間通して実施してもらいたい。
- ・ 花育の日は、花の歳時記を参考にして毎月設定し、日本の花文化に合わせるのも方法では。
- ・ 食育が国の方針で全国的に実施していように、花育も他県の事例があれば連携するのも良いのでは。
- ・ 花育マスターはすごいプロのレベルの人。もう一段下げたアシスタントがほしい。
- ・ 「花かるた」はあせる必要はない。市民に花育が定着してからでも良い。イメージがわかなければできないので、何回かにわけて募集し、市民の挑戦期間を長くして花育への関心を高めていけば良いし、学校も参加できる。
- ・ 協働は最終目標だが実際には何から始めるか、体制づくり等難しい。
- ・ (仮称)食育・花育センターはネットワークの要であるべき。
- ・ ボランティア団体については、例えば新潟ばら会等のように各地で活躍されている団体があるので、そういった所と一緒に講習会なども実施してもらえば親しみもでる。

会議資料

- 次第
- 座席表
- 資料1 平成22年度花育推進事業の実施状況について
- 資料2 (仮称)食育・花育センターの事業展開(案)
- 資料3 (仮称)食育・花育センターの運営の検討状況について
- 資料4 平成23年度(仮称)食育・花育センター事業実施一覧(案)

次回開催

- 平成23年2月